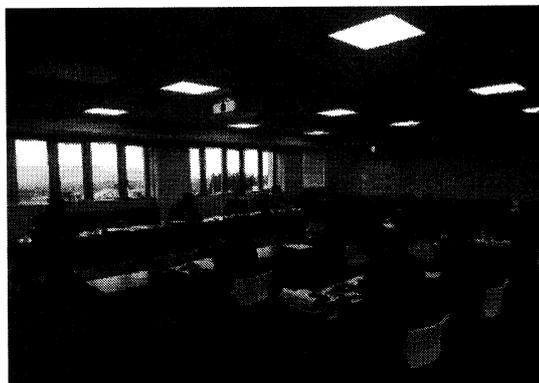


甲府市議会「政友クラブ」視察研修報告書

報告者 深沢健吾

1. 日程 2024年3月28日
2. 視察先・内容
場所 ファルマーバレーセンター
内容 「ファルマーバレープロジェクトと医療田園都市構想」
3. 参加者 5名
長沼達彦 鈴木篤 小澤浩 深沢健吾 橘田大洋
4. 対応者 (静岡県)
静岡がんセンター名誉総長兼理事 山口 建
経済産業部産業集積課長 小笠原 彩子
経済産業部産業集積課主幹兼副班長 鈴木 紳之
経済産業部産業集積課主査 斎藤 健彰
公益財団法人 ふじのくに医療城下町推進機構
常務理事 小坂 寿男
ファルマーバレーセンター長 植田 勝智
事務局長 三田 功



【ファルマーバレーセンターにて】

〈ファルマーバレーセンターの概要〉

ファルマーバレーセンターは、2003年4月に静岡がんセンターの敷地内で産声を上げて以来、産学官金連携による共同研究や県治験ネットワークでの臨床試験、情報交流、人材育成など、ファルマーバレープロジェクトに関するあらゆる分野の支援やコーディネートを行っている。

最も力を入れているのが、産学官金の連携にいる企業支援で、地域のものづくり企業のシ

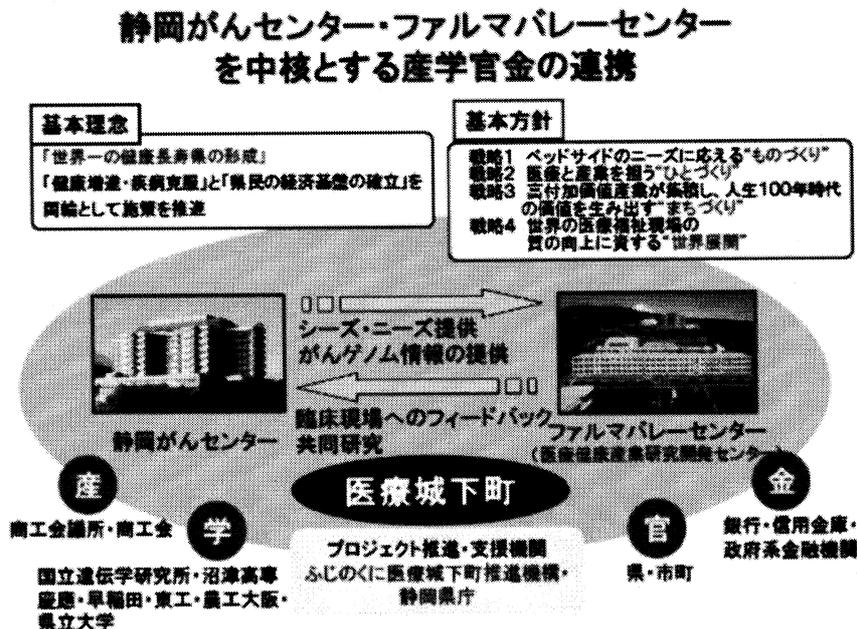
ーズと医療現場のニーズを結び付け、医療機器を中心に数多くの成果を生み出している。この20年で、約160件の医療機器等の開発サポートや、地域企業ネットワークは600社を超え、新たに医療健康産業分野に進出した企業は約50社を数える。また、国の大型研究開発プロジェクトにも数多く採択され、2011年には、内閣府に「ふじのくに先端医療総合特区」として指定された。

同センターは、2015年に現在の旧長泉高校に拠点を移し、地域の中小企業や医療機器分野の大手企業、知財や薬事申請をサポートする企業なども入居するなど、オープンイノベーションの場としての地位を確立している。

〈医療田園都市構想〉

静岡がんセンターの開院を機に、医療関連産業の振興・集積と、特色ある地域の発展を目指し、県東部を中心に高付加価値産業が集積し、質の高い医療と癒しを提供する医療城下町を形成してきた。

医療城下町の基盤としたファルマーバレープロジェクトの発展形として、次の20年に向け、超高齢社会においても住民が安心して豊かな暮らしを享受できる「医療田園都市」の形成に向けて新たな一歩を踏み出した。



〈「医療田園都市構想」で「超高齢社会の理想郷」目指す〉

医療田園都市構想の中心は「住民」であり、住民視点のまちづくりを進めることが、患者や高齢者の安心と豊かな生活につながり、更なる産業の活性化を促す。

地域企業強化、企業誘致、県外からの移住促進により、地域経済を発展させ、国際的な交

流の舞台として世界にその姿を示す「超高齢社会の理想郷」を目指している。

[本構想の3つの戦略]

1つ目「医療・福祉・介護による安心が実感できるまち」の実現

県民が生先端技術を受けられるサービスの充実や医療ものづくりのノウハウを基盤とした静岡がんセンター医療系大学院大学の整備が目標

2つ目「田園のゆとりが味わえるまち」の実現

豊かな自然や温暖な気候、広い敷地の住まいや豊富な食材を活かした健康長寿の促進が目標

3つ目「都市の活力が生きるまち」の実現

高所得が得られる就労の場や交通インフラ、子育てしやすい環境といった都市機能の拡充が目標



〈静岡県と山梨県との医療健康産業政策の連携〉

静岡県と山梨県は、2019年12月、両県の医療健康産業政策である「ファルマーバレープロジェクト」と「メディカル・デバイス・コリドー構想」との連携を強化し、医療機器の開発等を通じ、両県の医療分野の質の向上と地域経済の活性化を図ることを目的に連携協定を締結し、2021年からは「ふじのくに先端医療総合特区」が山梨県7市町まで区域拡大するなど、環富士山地域が日本をリードする医療健康産業の一大集積地となることを目指している。

【特区計画期間】2021年度から2025年度まで（5年間）

【特区目標】 ・がん医療の飛躍的発展

・ 地域企業の活性化と雇用創出

【山梨県対象地域 7 市町】 甲府市・富士吉田・大月市・南アルプス市・中央市・昭和町
富士河口湖町
(メディカル・デバイス・コリドー推進センター・山梨大学附属病院)

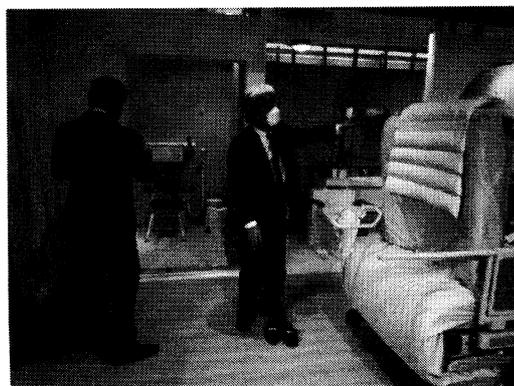
【静岡県対象地域 12 市町】 沼津市・三島市・富士宮市・富士市・御殿場市・裾野市・
伊豆の国市・函南市・清水町・長泉町・小山町
(静岡がんセンター・ファルマーバレーセンター)

【特区事業への参画の主なメリット】

- ・ 規制・制度の特例措置に向けた提案
- ・ 金融上の支援措置 (利子補給制度)



【製造された機器や製品】



【センター内のモデルルーム】

〈まとめ〉

世界トップクラスのがん診療拠点である静岡がんセンターを中心に、先端医療の提供・高度な研究開発と医療健康産業振興・集積を図るファルマーバレープロジェクトは、これまで静岡がんセンターによるゲノム医療の推進や、ファルマーバレーセンターの地域企業への支援、中核拠点施設の整備・活用を進めてきた結果、静岡県の医薬品・医療機器合計生産金額が11年連続で全国1位となるなど、大きな成長を遂げ、センターが所在する長泉町は、平均所得が全国62位、合計特殊出生率も約1.8となっていて、若者にとっても魅力あるまちとなっていることがうかがえる。

また、センター1階のモデルルームには、「人生100年時代における高齢者のための住まいのあり方を考える」がコンセプトである健康寿命が尽きた後でも、高齢者が最後まで自立し尊厳を保てる住居の在り方も提案されていた。

2001年の構想以来、常に将来を見捨てた計画・実践の下、広域連携による地域発展に貢献してきた功績は計り知れないものであり、財産として地域に根付き発展し続けている。

本市においても、視野を大きく広げながら将来を見据えた確かな産業・観光など、地域に根差した特色ある何かを導き出していくことが重要だと感じる、大変実り多い視察・研修となった。